

基地・軍隊あるが故の「悲劇」はもうゴメンだ！

～「6.19沖縄県民大会」と結ぶ神奈川行動へ～

5月19日、元米海兵隊員で嘉手納基地の米軍属の男が、「女性遺体遺棄容疑」で逮捕された。3月に海軍兵が那覇市内のホテルで女性観光客を暴行する事件があったばかり。基地と軍隊あるが故の凶悪事件は、この神奈川でも他人事ではない（一覧参照）。沖縄に特に集中しているのは、軍事植民地として過重な基地負担を強いられてきたからだ。沖縄県警調べでは1972年「復帰」以降昨年末まで沖縄県内での米軍関係者による犯罪は検挙されたものだけで約5800件、その内の凶悪犯罪574件、強姦だけで129件。これらの数字は氷山の一角だ。「復帰」前の統計はない。

日米両政府は「綱紀粛正」の掛け声ばかりで、事件・事故の元凶である日米地位協定に手をつけない。それどころか辺野古に新たな巨大軍事基地を建設しようとしている。

沖縄の人々は米兵・軍属による事件・事故を根絶させるために「全基地撤去」を掲げ連日抗議行動を展開し、6月19日には那覇市内で数万人規模の県民大会を準備している。この沖縄県民大会に呼応して、神奈川から声をあげよう！

米軍関係者の主な凶悪事件（東京新聞記事に加筆）

1995年9月	◆米兵3人が沖縄本島北部の住宅街を歩いていた女子小学生を連れ去り暴行
2001年1月 6月	◆海兵隊上等兵が沖縄県北谷町で連続放火 ◆空軍2等軍曹が北谷町の駐車場で女性を強姦
2004年8月	◆嘉手納基地の軍属が北谷町の民家に侵入し女性を強姦。98年の別の強姦事件も後に発覚
2006年1月 11月	◆空母乗員の1等航空兵が神奈川県横須賀市で女性を殺害し、現金を奪う ◆海軍軍属が横須賀市のバーで客の男性を押し倒し、男性は頭を打ち死亡
2008年2月 3月	◆海兵隊2等軍曹が繁華街で知り合った女子中学生を北谷町で強姦。被害者の告訴取り下げで不起訴 ◆海軍1等兵曹が神奈川県横須賀市でタクシー運転手を刺殺し料金を支払わず逃走
2011年5月	◆海兵隊3等軍曹が那覇市でタクシーを奪い、運転手をはねて逃走
2012年10月	◆海軍兵2人が沖縄本島中部の駐車場で帰宅途中の女性を強姦し、けがを負わせる
2016年3月 5月	◆那覇市のビジネスホテルで、海軍1等水兵が女性観光客を自室に連れ込み暴行 ◆嘉手納基地の軍属が女性（うるま市在住20歳）遺体遺棄容疑で逮捕



▲3月21日キャンプシュワブゲート前抗議行動（沖縄タイムス）



6月19日（日）

14時開始～リレートーク～15時デモ出発

横浜大通公園・石の広場（JR 京浜東北線関内駅南口2分）

主催： 神奈川平和運動センター/基地撤去をめざす県央共闘会議/かながわアクション/戦争をさせ

ないかながわの会/島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会 **連絡** 090-9143-9871（矢野） 090-4822-4798（深沢）

元米兵遺棄事件 被害者追悼集会要求書 ―1面参照

アメリカ合衆国大統領 バラク・オバマ 殿

在日米国大使館 キャロライン・ケネディ 殿

在沖米軍 ロールズ・ニコルソン 四軍調整官 殿

内閣総理大臣 安倍晋三 殿

内閣官房長官 菅義偉 殿

沖縄県知事 翁長雄志 殿

元米軍海兵隊兵士の事件被害者を追悼し、十分な対応と真相究明、米軍の撤退を求める要求書

2016年4月末から行方不明になっていた女性が遺体で発見され、5月19日元海兵隊員で軍属の男性が容疑者として逮捕されました。この痛ましい現実に直面し、何を言わばいいか。怒りが痛みを持って沸き上がるのを押さえることが出来ません。

この怒りや悲しみに心を配らず、責任回避や矮小化、政治の駆け引き事のように取り沙汰する声も聞こえ始めています。このようなとき、沈黙を選んではならない。私たちは声を発するためにここに集いました。

私たちは何よりもまず、奪われた尊厳を悔みます。彼女を大切にできた人びとが、彼女を想うための時間と機会が損なわれることのないよう、求めます。

私たちは、彼女がどれほどの恐怖と苦しみの中にあったか、荒ぶるような心を鎮めることが出来ません。沖縄に暮らす私たちはみな、自分にも起こり得たことだと、言葉を失い、その痛み苦しみを共に

私たちは、基地・軍隊の長期駐留が押し付けられている沖縄で、幾度となく繰り返される事件のたびに、被害者を貶める発言や態度にも、幾度となく引き裂かれてきました。被害に遭った人の尊厳が守られるよう、強く求めたいと思います。

今年3月中旬、那覇市内のホテルで女性が米兵による性暴力の被害に遭ったときに、在沖米軍のロールズ・ニコルソン四軍調整官は、「沖縄にいる米軍人、家族、軍属の合計5万人を代表する」と発言して、翁長知事に謝罪しています。あれから2ヶ月しか経っていません。綱紀粛正・再発防止の約束は、また反故にされたのでしょうか。この責任はどのように果たされるのでしょうか。

私たちは「軍隊は構造的暴力組織であり、平時と戦時とを問わず、人間の安全を保障しない」と訴え続けてきました。基地・軍隊は、人間の心と身体を深刻なまでに破壊しており、それはフェンスの内と外を問いません。沖縄に駐留する米軍人・軍属・家族のひとりひとりにも呼びかけます。自分たちには関係ないという態度は許されません。私たちと共に悔み、怒り、抗議の声を上げて下さい。

私たちは、日米両政府、米軍、沖縄県に対して、基地・軍隊の駐留がもたらすこのような現実を直視し、責任ある行動を執るよう、以下のことを強く要求します。

一、被害者を取り巻く人びとへの謝罪とケアが丁寧に行われること。
一、真実が究明され、加害者への厳正な処罰が行われること。
一、沖縄に暮らす人びとの真に安全な社会を実現するため、沖縄から全ての基地・軍隊の撤退を求める。

2016年5月20日

基地・軍隊を許さない行動する女たちの会、ワンストップ支援センターの設立を強く望む会、強姦救援センター・沖縄（REICO）、ジェンダー問題を考える会、女団協、I女性会議、新日本婦人の会、沖縄県母親大会連絡会、沖縄組、高教組、高退教、沖縄教、SEALDs琉球、安保法案に反対するママの会（沖縄）、那覇プロコリ、わんから市民の会、ピースキャンプ沖縄準備会、合意してないプロジェクト、沖縄県内学生有志、ヘリ基地反対、ヘリパッドいらない住民の会、Weがらんてん、沖縄民衆連帯、WILD、京都、国際法市民研究会、トリイ基地の強化に反対し読谷村自治基本条例を生かす会、「今、ここからはじめよう」、オキスタ107、Hawaii Peace and Justice, HOA: Hawaii Okinawa Alliance, Okinawa Alliance, nawa Alliance, barcas, monaca, 稲嶺市政を支える女性の会（いなぐ会）、みやこ・あんなの会、ていだのふあ島の子の平和な未来を創る会、沖縄県憲法普及協議会、沖縄人権協会（22日改訂現在、36団体）

県議会の抗議決議全文

元海兵隊員の米軍属による女性死体遺棄事件に関する抗議決議

4月下旬から行方不明となっていたうるま市の女性が遺体で発見され、元海兵隊員の米軍属が去る5月19日に死体遺棄容疑で逮捕されるという凶悪事件が発生し、県民に恐怖と衝撃を与えた。

元海兵隊員の米軍属によるこのような蛮行は、県民の生命をないがしろにするものであり、断じて許せるものではない。遺族の悔しさや悲しみははかり知れず、県民からは激しい怒りの声が噴出ししている。

本県議会は、米軍人・軍属等による事件・事故が発生するたびに綱紀粛正、再発防止および関係者への教育等を徹底するよう米軍等に強く申し入れてきたところであり、ことし3月22日には那覇市で発生した米軍人による女性暴行事件に関する抗議決議を行い厳重に訴えたばかりである。それにもかかわらず、またもやこのような事件が続発したことは極めて遺憾であり、米軍における再発防止への取り

組みや軍人・軍属等に対する教育等の実効性に疑問を抱かざるを得ない。

よって、本県議会は、県民の人権・生命・財産を守る立場から、今回の事件に対し厳重に抗議するとともに、下記の事項が速やかに実現されるように強く要求する。

記

1 日米両政府は、遺族および県民に対して改めて謝罪し完全な補償を行うこと

2 日米首脳において沖縄の基地問題、米軍人・軍属等の犯罪を根絶する対応を協議すること

3 普天間飛行場を閉鎖・撤去するとともに県内移設を断念すること

4 在沖米海兵隊の撤退および米軍基地の大幅な整理・縮小を図ること

5 米軍人等の特権的に扱う身柄引き渡し条項を含む、日米地位協定の抜本改定を行うこと

6 米軍人・軍属等による凶悪事件発生時には、訓練と民間地域への立ち入りおよび米軍車両の進入について一定期間禁止する措置を講じること